

工場進出に対する住民の声

現地スクープ

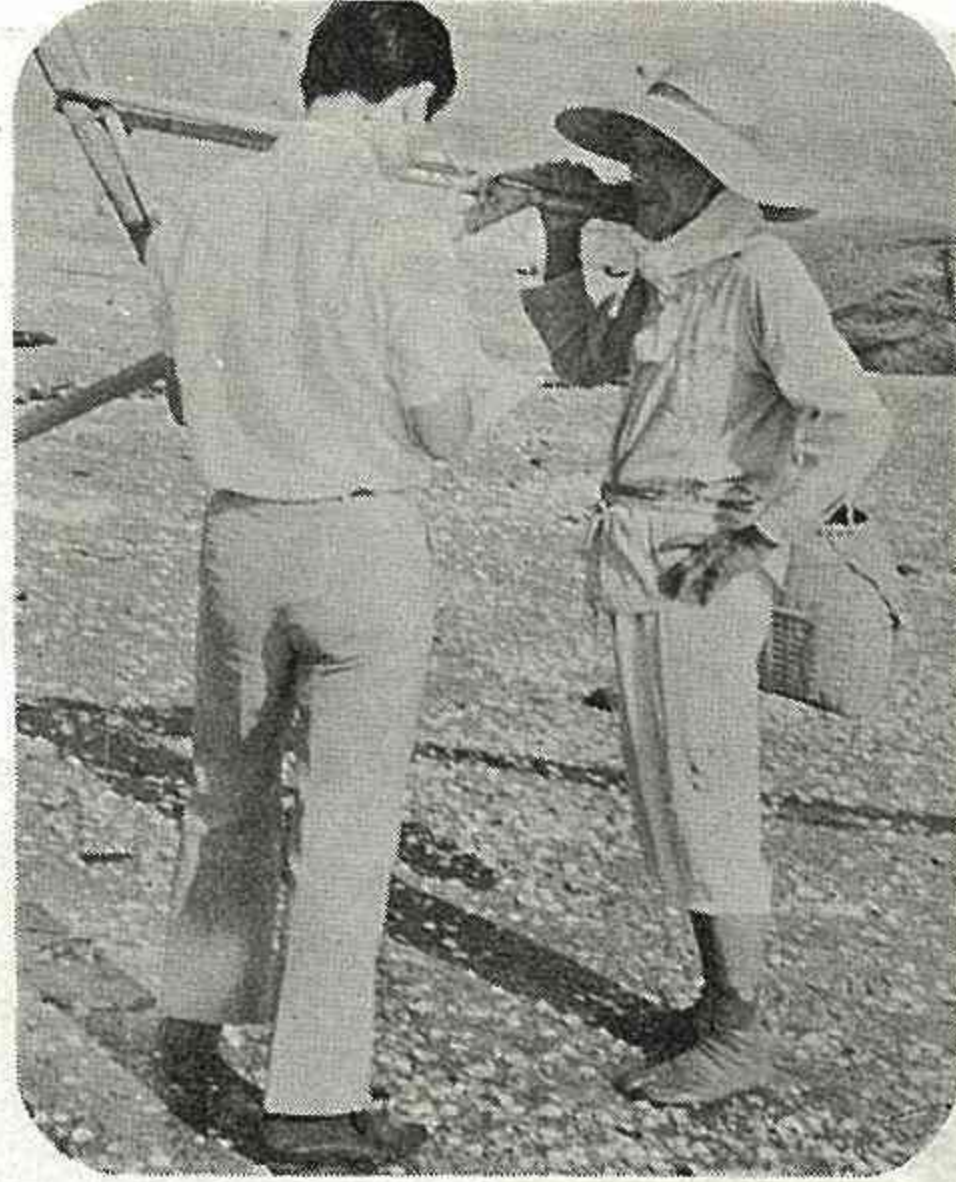
海辺で

いまや、長洲町は熊本県工業地帯の核になろうとしている。町が大きく伸びるためには、何より地元住民の熱意と自覚が必要であるが、工場進出に対する住民のナマの声を現地で聞いてみた。

世界で一番大か船ば造つところば見てみるごたる。わしらが若か時や、アミ、ヒラどんが、そいな取れよつたがな、今じゃ魚もだん／＼少うなつてしまつた。工場たつた結構なこつばつてん、今はやりの公害だけば、勘弁してはよい、サツシも船も人間に害は与へて聞いとるが、水俣んごてな、なるこつな一か。なるだけなら、海も汚さんでくれなつて。

「小さい時から、海と共に生活してきた古来のナマの声である。もつともである……。」

人間尊重の精神を忘れた社会開発はあり得ないものである。



(古老の話に耳を傾ける)

比島の戦跡を訪ねて (二)

厚生課長 松野 司

いつしか日も暮れ、機は星空の中を飛んでいた。そこで夕食が出たが、特に目新しいものもなく、ガンヅメ(フオーク)にホーチョー(ナイフ)それに器が要領よくままとみだりに小さくボリ製になっていただけだ。娘たちへの語り草。吉富さんの座席灯をつけてもらつてデミで撮つたが、露出不足を補えたか、どうか。味はまあまあ、東京で言えば二流どころか。そんな吟味をしながら半分どころは食べ残してしまつた。

もつたない話である。

食後、眠りこけていたら、「松野さん、下ば見てみなつて」と吉富団長。二一時ちよい前「あれがマニラの灯ですよ」

との説明である。それは宝石を散りばめたような、星が下界に降りているような神秘的な美観であった。

スターウエズの案内に従い再びベルトを締める。機は羽音を振らすような抵抗をみせながら高度を下げ始め、自動車のライトの流れが見えくらりに降下してから大きく右旋回。なんのことはない、コトリともいわず着陸した。時に二一時丁度であった。

ミスター中村が「大したもんでしょう。四時間ジャストでしたよ」と言った。

税関のチェックを終えロビーに出て間もなくチャッキが揃つたところで空港へ出た。そこにミ

スター島田が待っていた。彼は青山学院大卒、わが長洲町の対岸、国見町の出身であり、東京オリンピックの際、比島の有力者に見込まれ渡比、フライピン娘と恋に落ち結婚、現在フジ、トラベラーサービスの専務さんである。(思い出した。そうだが、このことを機内で吉富さんが私に教えてくれたのである。)

島田君の案内で車乗り場に向う。一杯の人だかりには驚かされた。われわれのチャッキをマイクボックスに積み込むのに、まるで人海作戦である。比島は人手が余つていて人件費がペラ棒に安いついては、まさしく、このことだなアと思った。

バスが走り出した。ミスター島田が挨拶を始めた。なかなか堂にいったものである。

「前略：中略：(マニラの目抜き通りに入る) ちよら、この切がアメリカ

大使館であります。一昨日は妻のデモがありまして六名の死者が出たらしいです。このアメリカ大使館は六万人位の学生や農民の集団からデモ行なわれて窓ガラスなど滅茶苦茶にこわされました。日本大使館もデモをかかけられたんですが、理由が全然違うんです。こういうことなんです。フライピンの政界は贈賄で汚れている。それを助長しているのはアメリカだ。アメリカは今でもフライピンを植民地としか考えていない。アメリカは帰つてくれ!!というのです。ところが日本に対する見方は物凄く好転してしまつて、デモ隊の日本大使館への主張は「われわれの、この正義のデモに日本は協力してくれ」というわけですよ。メイドイン、ジャパンの優秀性と商社マンの誠実性がやつと解つてもらえるようになってきたというわけでしょうが、田舎の方に行けば行くほど対日感

情は良くなつていますから、その点心配なく旅行をお楽しみ下さい。とに角、今日のフライピンは、誰を金をつくら持つてこの二つの事柄で問題が片づきます。いわゆるマネーとコネーということですね!!

そうした説明を十五分ばかり聞いているうちに格調高いマニラホテルに着いた。

吉富さんと私の相部屋であるが、その部屋の広いこと。二〇畳はゆうにあって、あれこれ取り出しては散らかして見たが、ほんの片隅を埋めるにとどまらず、そしてメルボーイ、フロントボーイと人手が揃い至れりつくせりのサービスぶり、この世の天国を感じたものである。シャワーを浴びた後、吉富さんと顔馴染みの現地のガイドミスターロドリゲスを交えて私たちの部屋でスケジュールの相

今こそ 各人の自覚が必要

長洲町婦人会長 中山しま子

長洲町に大企業工場が建設されるという、何と百万トンドックを擁するとか、どうして私共の想像に及ばぬことではないか。工場誘致、この言葉を聞く度にすぐ連想することが、発展ではなからうか。現在まで、そして豊かでもない町、とい

て貧困な町でもなく、大きな災害もなく、本当に平和な町だった町が、今ここに大きく変わろうとしている。

現在、不二サツシ工場建設の騒音が、朝な夕なに聞こえ、操業も間近となつていく。統一して日立造船も建設されることであらうと、こう思う時、私共も一町民として、又組織に加入しているものとして、都市化したつある町の状況から新たな考えを、又一層新たに考え直す必要があるのではなからうか。

繁栄、発展の裏に潜むもの、それは何であるのか。人口の過疎から過密への移行、こういう現象を考へる時、一層組織の強化をはかり、その受け入れに万全の策を講じなければならぬのではなからうか。そのためには今より一層の各人の自覚が必要であり、責任を以つてことに当たるべきである。

先日、郡理事会の折、会長よ

あろうと、こう思う時、私共も一町民として、又組織に加入しているものとして、都市化したつある町の状況から新たな考えを、又一層新たに考え直す必要があるのではなからうか。

繁栄、発展の裏に潜むもの、それは何であるのか。人口の過疎から過密への移行、こういう現象を考へる時、一層組織の強化をはかり、その受け入れに万全の策を講じなければならぬのではなからうか。そのためには今より一層の各人の自覚が必要であり、責任を以つてことに当たるべきである。

先日、郡理事会の折、会長よ

「お母さん!!おじいちゃん来たよ」孫は玄関に飛び出し、いきなりこう叫ぶ。

そして、オモチャを並べた自分の部屋に私を引っ張りこむ。このごろ度々経験することであるが、福岡や佐賀などのナンバーにつけた車の乗客からよく道を尋ねられる。

「長洲町の〇〇へはどちらへ行くのでしょうか」私はそこまでの道筋を教えるながら、何かしら心が豊かになる。なんなら、そこまで案内してもよいような、余計な気持になることもある。こんな経験を持たれる人も長洲町には沢山おられることと思う。

さて、この孫の心と私の心を私はこう考へる。

三才の孫は自分の居城であるオモチャや部屋を、私は自分の古里である長洲の町を、誇りを持つて愛着しているからじゃなにかと、そこで又考へる。

孫は自分の部屋のオモチャが増えたり、減つたりしてゆくことに強い愛憎の心を抱くであろうし、私達、住民も長洲町の変わりゆく姿をながめて、楽しくもなり、又淋しくもなるものである。

私は童心にも似た素朴な純粋な各々の感情を町民の皆さんと共に各々の心の中に再確認しようじやないかと、呼びかけたのです。

と言いますのも、私達の町が当面している七〇年代の十年間は、まだ経験したこともない急テンポで移り変わるであらう。長洲町はその道程の出発時点の秒読みの時刻に立たされているのである。やがてスタート

ら、認識すべきであらう。」「激しく変ぼうする長洲町にこれからも一生、根を下す者として、手を組み合つて邁進すべきであらう。そして他地方から長洲へ転入される方達へも喜んで参加していただく様、誰からも好かれる婦人会組織づくりに専念して止まない次第である。

「そーね、遊園地のようなもんがあつて、そこで一日中遊びたか。野球場も欲しか……。」

子供達の夢は果てしなく続く。現代の子気質は、立派な会社で働いて、たくさん金をもらい楽しく、生活したいのである。

この子らの願いをかなえてやりたい。そのためには多くの、しっかりと企業体を受け入れ、生産、福利厚生がバラスをとりつつ、進まねばならない。



(町の将来を真剣に考える子ら)

ふるさとのうた

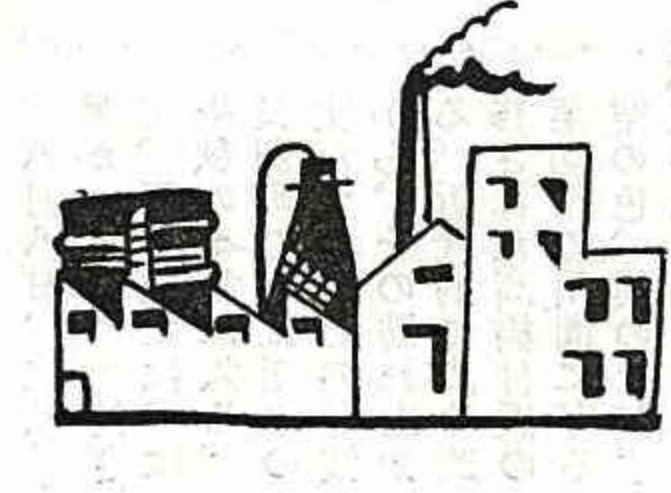
のピストルの音を聞くことも聞えないものと信じてよからう。そうなる、これより十年、二十年、三十年(例えば、今二十才の若い人達が五十才の初老になる)、この時代が人生の働き盛りをもって生まれ合わせた人々、そのあなた方に大きな期待と信頼感を抱く。

長洲町はあなた達に立派な前進街道を開拓してもらおう。そして、あなた方の努力によつてうちたてられた業跡、即ち長洲の繁栄への街道―物心両面より組み立てられた―を、後に続く世代の人々に残してほしい。

世代に相応しい良識と智恵で築き上げゆく繁栄を、我々の郷土の青春を、皆さんの手で、皆さんの心の中でそろ／＼作つてもらいたいと思う。それは、あなた方個人個人の繁栄にもつながることではないだろうか。

人間の住む地上社会には、日照があり、日陰がある。然し、太陽は万辺なく地球を照らす。住民繁栄の道は、水、空気、大地、太陽の四つの要素を忘れた地域には出来上がらぬ。

ふるさと蒸情 吹雪と新らしき 命 風化せよ 吾郷民の 意志の流域 (築地邦輔)



戸籍とあなた

戸籍相談シリーズ 離婚 (1)

勝手に出された離婚届

(問) 知らない間に夫又は妻から勝手に離婚届が出されたらどうしたら、貴方だったらどうしますか？ (答) いったん離婚届が出されてしまおうとあきらめてしま...

優良防犯団体として県表彰

長洲町子育連

去る七月十六日昭和四十五年度県防犯協会連合会の総会が県庁中会議室に於て開かれ、この席で昭和四十四年度の優良防犯団体「熊本市防犯モデル地区推進...



表彰を受ける菊川子育連会長

勝手に出された離婚届は無効前に述べたように、夫婦は話し合いのうえ、離婚届に署名、押印して役場に提出する...

十月一日は 国勢調査

来る十月一日をもって、一九七〇年国勢調査が日本全国の市町村を単位として一斉に実施されます。

今回の国勢調査は十年ごとの大調査で、昭和四十年の中間調査と違って内容、調査項目もふ...

白バラ会 結成式行なわる

去る六月六日、長洲町中央公民館において、本町を明るく正しい選挙の町にしようとする運動の一環として、白バラ会の結成式が行なわれた。

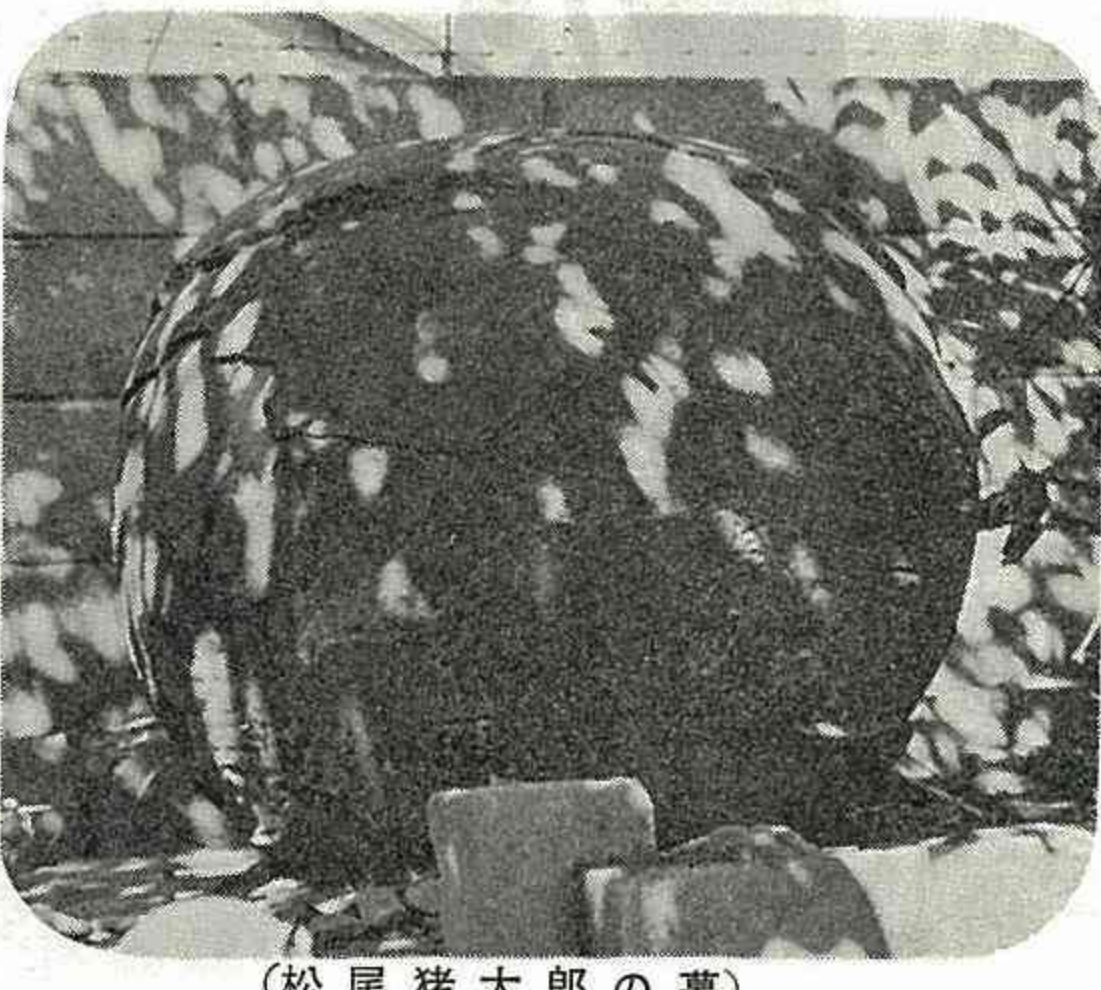
今後さらさら不二サッシ、日立造船等の大企業進出に伴って長洲町は大きく転換することでしょう。それにもなると非行少年の激増あるいは大都市へと発展すれば当然暴力団等が進出して来るものと思われま...

郷土の遺跡を訪ねて

細川藩士 六百五十石

松尾家の人々

◎元文年間(二三四年前) 松尾氏長洲に移住 源頼朝が鎌倉に幕府を置き、武家政治が始めてから、徳川時代まで、長洲町の武士として最高の禄高をもらっていたのは松尾次左衛門とその子孫の人々である。文政七年(一八二四年)申五月荒尾手永の役人であった長洲町の地土浦野定助氏が書かれた玉名郡荒尾手永手鑑に「御知行並御蔵米 御留守居御番方席 松尾市八殿」と土族名簿に記載してあり、知行地をもらっていた御侍衆であったことが分かる。



(松尾猪太郎の墓)

松尾家の先祖は吉良左兵衛源義継であり、足利義満の第三子である。その後第八代まで寛政の津浪で系図を紛失し、はっきりしていない。第九代目は松尾隼人であり、関が原の役で豊臣の西軍につき、松尾山を守って戦い、敗戦になった。その故をもって姓を松尾氏と改めた。松尾隼人は松尾山の戦に敗れ、残徒と共に九州に走った。それは慶長五年(一六〇〇年)であった。関が原の役から三十七年後の寛永一四年(一六三七年)鳥原の乱が起き、天草四郎の一擧に、それより城南の木原山城跡の柵に居り、牧場を開き、傍ら乗馬を近郷の子弟に教える有名になり、又、財を貯め資産家になったと伝えられる。

に肥後藩主に代って応じたため新知行百石を与えられている。又、同三年(一七四三年)七月領主に寸志御用立てしたのも、御加増八十石が与えられたと家系図に示されている。延享四年(一七四七年)に領主宗孝公は江戸城登城の際、他人と見誤られて殿中で殺され、細川重賢公がその後を継がれ、肥後中興の名君と言われるようになった。なお、その頃、長洲町は享保十七年(一七三二年)田虫腐れによって大飢饉となり、それから天明六年(一七八六年)まで五十五年間不作で農作物がとれず困った時代があった。馬場十助氏の旧事記に当時の模様を次のように記載してある。「此の秋七月六日田面を見るに少々出穂もあり、病もない様に見えましたが、それから日々に病もまさり、同二十日頃になり青みある田は稀に見えしなり。この頃までは田に鯨の油を入れて虫を除く事を知りたる人なく九州の内にては肥前の御領州に飢死の人多し。」この頃長洲では、琉球から伝来の甘藷を初めて食べ始めた。最初は痰の毒になるといって食べようとしなかったが、元文年間(一七四〇年)から十年間程して糧食として食べるようになった。作りかたも広まって飢饉を救う一助になったという。寛延二年(一七四九年)三月細川霊感公から松尾次左衛門の弟貞之丞と久太夫の二人が新知行百石を与えられ、それそれ藩士に列せられた。宝暦九年(一七五九年)正月には、松尾氏は芦北田の浦表川塘修理の求資に応じて霊感公より九曜の御紋付御給羽織、同御給を拝領された。当時としては無上の光栄である。又同年肥後各郷村の要処に予備のため穀類貯蔵の土木費に領主の求資に用いられたので、霊感公も感激され、何なりとも願望を許すとの御言葉に、御意を得て、四王子神社の敷地免租を得、四王子神社の新築を実現し、九曜の紋所をいただいた。奉納せられたという。この他町内の清光寺、西光寺、三光寺の三寺に、時を告げる大鐘を松尾氏が一人で寄贈された。これらは松尾久太夫の偉大なる業績である。明和六年(一七六九年)正月十一日、松尾次左衛門の長子猪太郎知行を相続する。猪太郎は居然たる大家で他の追従を許さぬ馬術の名人であった。領主霊感公に仕え、大坪流馬術の師範を務め、騎馬術及び養育一切を委任されたという。公に従って江戸に上り、愛宕神社参拝の時、騎馬のまま数段の石段を登り、あばれ面目をほどこして、神社に面額を掲げてあった家系図の口碑文に、次のように書き残している。「松尾猪太郎馬術妙技多々ある中に、家長洲の里に在りし時熊本登城帰途、長洲より腹も堤修理の際、その堤の中数間掘切にそのむ行路に障得を得たり。騎上困却馳行不可能なり。如何せん姿勢、其の場集合していた労働者万人之を視て云う。下馬請の松尾先生も是の掘切口には困難ならんと。然るに先生それより又騎引返し、元より馬に能く観念せしめたり。而る後鞭馳声をあげ直進すれば、則ち、その堀口飛び渡り後に廻首せず一時に家に到りたり。云々」霊感公は松尾猪太郎の馬術の妙技に感心し、自分の二匹の乗馬の中に一匹を彼に与えたという。猪太郎は又長洲町の窮民の救済にも資財を投じて貢献したと言われている。ただし、松尾家の人は、郷土のため数々の社会事業をしてきたことは町民に感謝すべきである。猪太郎の墓は清光寺西側の草むらに静かに眠っています。(この稿の執筆に当り、清住先生著「長洲郷土物語」、馬場古文書にお世話になったことを感謝いたします。) 林田

時の話題

生命の泉 いつまでも

町内最高令者(九十九才) 茂見 チュ子さん

九月十五日、敬老の日、本町でも例年のごとく、八十才以上のおじいちゃん、おばあちゃんを招いて、敬老会が催された。そこで今回は敬老の日にならんで、本町内の最年長者を訪ねてみた。



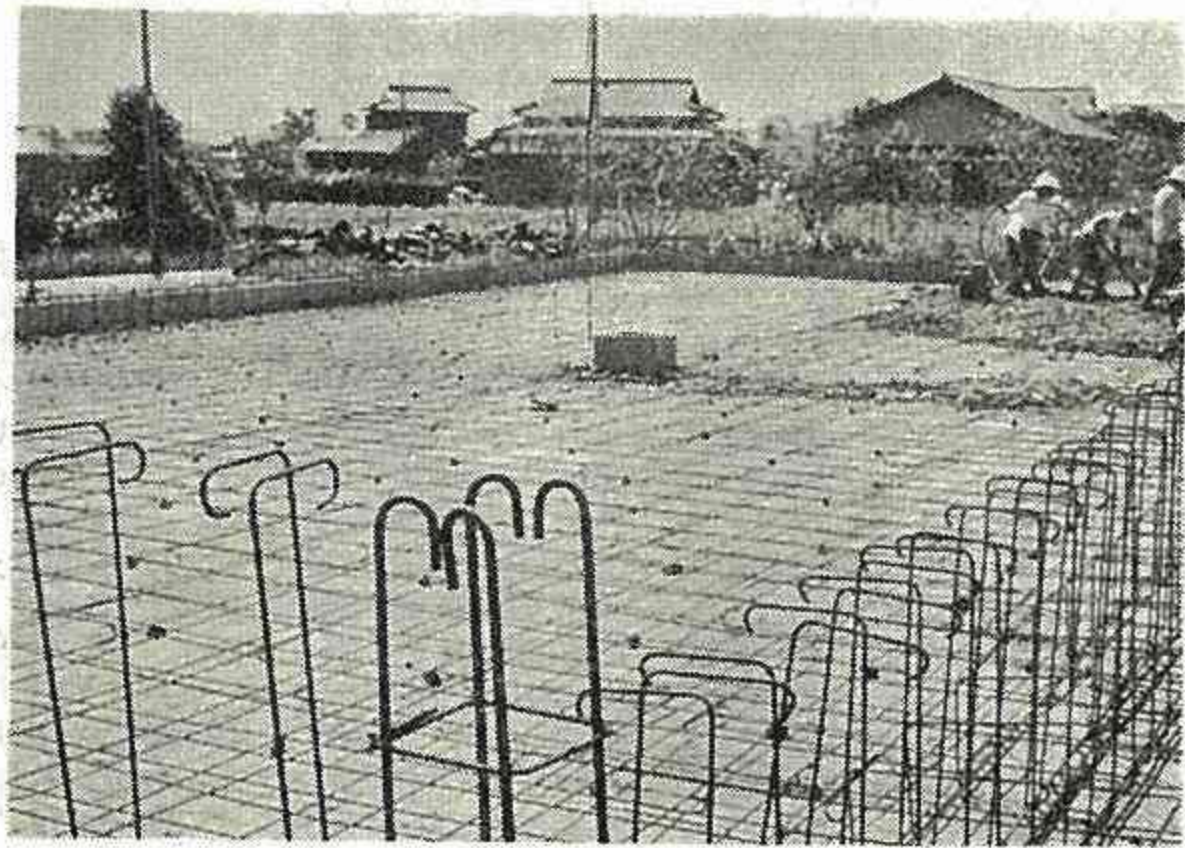
三〇m道路沿い北側(西荒神町)に位置して茂見チュさんの家がある。記者がカメラを肩に訪問したときは、座敷でひとり物思いにふけていられる様子だった。

こんなチュさんの毎日の中で唯一の楽しみは、歌舞伎のテレビ中継で、この時間は、家族が補聴器をはめてやろうとする手を払いのけ、テレビに耳をくっつけられ、画面に目をやられるとか、これこそ、ナマ放送と記者は苦笑いして、待ってましたとばかり、とっておきの質問を浴びせる。

写真二題



世の盛衰を感じさせる アンコ船の残骸



建設中の長洲小プール

成人式は1月5・6日

国立阿蘇青年の家で

公民館行事案内

- 十月十一日 町民体育祭
長洲清里地区(長洲中)
腹赤六米地区(腹赤中)
十月十八日 郷土芸能祭
(腹赤中体育館)
十一月二十八、二十九日
青年・婦人両学級
国立阿蘇青年の家研修
十二月十三日 町内駅伝大会
(長洲一周)
一月五、六日 成人式
(国立阿蘇青年の家)

町をきれいに
長洲町婦人会

去る八月十一日早朝、長洲婦人会は、中山しま子会長以下三十名が無縁墓地、遭難墓、忠霊塔周辺を清掃した。この奉仕作業は、年間行事の一つとして、草取り、整地を行なった。

地区館たより

清里校区の皆様へ感謝

去年の夏、保育園の子供達に少しでも涼しい夏をという思い付きで、はじめて一年、校区の皆様方には色々とお出費の多い折、多額の寄附を御願ひ致しました。皆様方快く御協力下さいまして、天井扇四台がこの夏に先がけて各室に取り付けられました。

長洲町社会福祉協議会へ下記の方々より多額の御寄附をいただきました。
熊本県議会議員浦田勝殿の母堂逝去による香典返しを浦田勝殿より
松岡スノメ殿死亡による香典返しを堀田常義殿より(下本町)
浜辺和政殿死亡による香典返しを浜辺二男殿より(下松原)
島田ハツエ殿死亡による香典返しを島田篤殿より(下東)
太田光彦殿死亡による香典返しを太田セツ殿より(出町)
前田ウメ殿死亡による香典返しを前田貞殿より(下松原)
船津徳次殿死亡による香典返しを船津ミキ殿より(上沖洲)
吉田一知殿死亡による香典返しを池田友勝、吉田剛殿より(玉名市)
仕明義雄殿死亡による香典返しを仕明義清殿より(出町)
梅村善彦殿死亡による香典返しを梅村省吾殿より(梅田)
松尾ヤエノ殿死亡による香典返しを松尾学殿より(上今)
上田道恵殿死亡による香典返しを上田汪殿より(向野)
洲崎郁代殿死亡による香典返しを洲崎正敏殿より(下本)
浜崎貞吉殿死亡による香典返しを浜崎貞行殿より(新町)
久保政吉殿死亡による香典返しを久保和夫殿より(下宝)
昭和45年4月1日から昭和45年9月11日まで、たくさんの方々から御芳志を受けました。
総計 153,400円
尚、紙面の都合で掲載出来なかった分を深くお詫び致します。



去る七月二十四日午前〇時から、天水電報電話局が開局し、天水町の電話がダイヤル式になりました。市外局番は〇九六八七〇一が〇九六八八二にかわり、電話番号も四ケタにかわりました。
去る七月二十四日午前〇時から、玉名市の電話番号に市内局番二または三がつくと同時に市外局番は〇九六八七二が〇九六八七にかわりました。玉名市内の大部分の加入者の電話番号は、市内局番二または三がつ

人権特別相談所
開設のお知らせ
九月二十九日午前十時より午後三時まで、長洲町中央公民館に於て人権特別相談所を開設し一般の法律相談、身上相談に応じますので町民の皆様にお知らせします。
人権擁護委員 今口 優
熊本地方事務局玉名支局長 関 保久
山口 常義
同法務事務官 山田 和武

秋の夜長、庭の片隅より妙なる音が聞こえてくる。鈴虫の声はストレス解消に悩む人間世界にとって、一服の清涼剤にも似たものである。本町で鈴虫を自宅で飼育されている、上今町の秋富さんが、今度、四王子宮、長洲駅、航送船広場に放し飼いをされた。秋富さんが鈴虫に愛情を注がれてから、六年になる

おめでとう
カップル誕生
S45・5・14より
(妻)内野ノ静喜 (夫)宮野
(妻)前田ノ子 (夫)荒尾市
(妻)西辻俊二 (夫)清源寺
(妻)宮本武子 (夫)清源寺
(妻)古本喜信 (夫)上沖洲
(妻)船津真由子 (夫)上沖洲
(妻)宮田マコ子 (夫)新町
(妻)松森哲雄 (夫)大明神
(妻)宮田マコ子 (夫)大明神
(妻)福田芳子 (夫)大牟田市
(妻)尾田清志 (夫)清源寺
(妻)古賀美恵子 (夫)大牟田市
(妻)中山武子 (夫)上宝
(妻)大園光広 (夫)長崎県
(妻)原田秀也 (夫)中町
(妻)津崎加代子 (夫)宮ノ町
(妻)伊藤由美子 (夫)上明
(妻)大塩アツ子 (夫)大明神
(妻)松野正孝 (夫)清源寺
(妻)古賀千代子 (夫)福岡県
(妻)杉山幸子 (夫)中町
(妻)長谷川とよ (夫)玉名市
(妻)内浜孝信 (夫)出町
(妻)村田孝子 (夫)上沖洲
(夫)玉名市

編集後記
からすの鳴かぬ日はあつても、救急車のサイレンの音を耳にしない日はない。激増する交通事故は、公害、物価と共に現代社会の三悪である。
世はまさにモータリゼン(自動車化)の時代と呼ばれているが、この有様ではモータリゼン(自動車化)ではなからうか。車は本来走るもので、狂魔と化してはならない筈だが、現実には、そう云わざるを得ない。人間が造った文明の利器は、人間自身の手で慎重に取り扱うべきである。
スピードに
ハンドルとられて
くれぐれもこういふことにならないように、お互いに注意しましょう。
お手もとお届けするのが今日になり恐縮に存じます。内容を充実強化するため、皆さんの建設的な御寄稿をお待ち申し上げます。
(いのもと)